

# 市長と語ろう地域懇談会 記録

【日時】平成24年5月8日（火）午後6時30分～9時00分  
 【会場】東山支所  
 【対象地域】東山、西達布、老節布、平沢  
 【出席者】27人

担当部	意見・要望などの要旨	回答の要旨
<p>経済部</p>	<p>聞いていたら、作文的な要素が多いと考えています。これが実現の方向に行くとすれば、相当荒っぽいことも発生すると考えます。それと同時に、田舎の方もこのまちづくりとあわせてやはり流れを良くしなければ、ダメではないかとそんな感じを多く持ちます。</p> <p>それから考えた場合に、すごい人口の減少を見えています。農協等でも合併という問題があり、あまり効果がないということで、農協の横のお店も同時に全部無くなりました。廃業ということで消費者は困っています。富良野か山部に行くか、遠方までガソリンを焚いて走っています。こうした問題を目の当たりにした時、これは大変なことが発生するということを考えます。こうした問題等についても、少くくは考えてもらえなかったのかなという気がしました。</p> <p>北海道の中で、農業と畜産をあわせて、だいたい1兆1千億の生産高があるということです。だいたい九州と同じ位の農業生産です。九州はハウスが、今だけ山のように真っ白に見えます。そういうことを考えた場合に、九州が北海道よりも乾物が多いです。ということになりますから、行政も応援はしています。農業周辺が盛んになればこそ、街の真ん中が良くなると私たちは考えます。</p> <p>とにかく、私たちの燃料がこれからどの位上がっていくのかという辺りを知った方が良くそんな感じがします。毎日、大変な</p>	<p>【市長】今のお話の中で、この計画そのものが意見を聞いていますと、我々の意見と違いますが、説明不足の点があれば説明をしていきたいと思えます。現在やはり、富良野の場合、先ほどスライドでお見せしましたが、農家の減少もありますが、商店街で商圈商業動向調査を2年にわたって実施をしました。70%が将来、農家よりも将来が不確定であるという結論が出ました。それで、行政としても、市街地の形成が無くなるような状況にはできません。こういう一つの公共施設を持ってくることによって、街の賑わいを作る。もう一つは、中小企業の振興条例というのが富良野市にもあります。この見直しを3月の議会でもお話をさせていただきました。それで5月20日に、空き店舗にもとづいて、商売、あるいは住宅を借りて、店舗の住宅を置いて、これから他から入ってきてお店を行うといった方がだいたい今のところ20人くらいいます。この方々に、家主に対しては、家賃の助成を出す、店舗の改築についても助成する、金融機関からの借入に対しても金利の補てんをしていく、こういう大幅な見直しを中小企業の中で行います。5月1日から受付をして、今年から実施をしていくという状況になりましたから、恐らく20件くらいの方々が説明会に来ていますので、少なくとも半分以上がそういう状況づくりになっていく一つの大きな起爆剤になる。そういう形の中で、富良野の市街地の再生の第1歩として考えていく必要性があります。もう一つは、この中心市街地活性化の基本計画にもとづ</p>

苦勞をみなさんはしています。そういうことなども含めて考えていただきたいと思います。

いて、大きな公共的な施設や民間の活力を活かした施設を建てていくことによって、市街地の賑わいを大きくしていこうというのがこの計画の大きな狙いです。ですから、今ご質問あった中で、説明不足があったというならば、後ほどまた説明をさせていただきますが、基本的な狙いとしては、そういう状況にあるということを理解していただきたい。

もう一つの指摘がありました農家の方が減れば、街が廃れていくというのは、私もある程度同感をしています。現在富良野市の農業の実態というのは、年々離農をしていく現況が見受けられます。しかし、これをどう抑えるかというのは、大きな課題です。富良野市も、農業計画の5カ年計画の中で、実施計画で何を行うのかということで、4つの点について大きな柱を今年立てて、予算を付けました。一つ目は人材確保、二つ目は生産基盤の整備、三つ目はシステムづくり、4つ目は産地の安全安心産地づくりであります。この4つの柱を立てて、現在それぞれ関係する農業協同組合などと連携を取りながら、今年から1歩1歩着実に進めて行く。それには人づくりですから、大きなこれから後継者づくり、新規就農の方々が入られる体制づくり、人材育成をする状況づくりを含めた中で、これらを率先して、遅いかもかもしれませんが、そういう状況づくりをしていきたいというのが、富良野市の今年から大きく転換をしようという農業政策であります。その中で、今年4月上旬に、埼玉農業大学校の方から2名、東京都出身と埼玉県出身の20歳と23歳の方が富良野に転入して、山部の農園に就職をしていただきました。お会いしましてお話を聞きましたら、将来、富良野で農業をするという意志があり、行政としては、農業大学校とこれから連携を毎年していますが、さらに人材を交流できるような形で、少なくとも1人でも2人でもそういう、将来、富良野で農業を興したいという学生が現実的に入って

きたということは、これからの富良野にとっても、大きな力添えになるということで、これは一つの方法として取り入れていく必要性があると考えています。もう一つは国で、人材確保のために、新規就農については、750万を5年間で行うという計画が出ています。それに市がどういう補完的な役割ができるような状況を作っていくかという、それによって、人材の確保と補てん的な後継者を作っていくような状況づくりをしていきたい。これが今、東山地区においても、そういう状況の中で進めて行くことが、これからの富良野の農業の前進につながっていくと考えています。

もう一つは、私は、農業と観光と環境ということでお話し合いをしてきました。その中で環境については、将来明るい見通しがあると強く感じます。北海道大学、あるいは民間と連携して、一つは、固形燃料を活用した加温するハウス栽培に提供できないかということで今研究をしています。固形燃料は、有料ではなく無料で活用できますから、これを加温的なハウス栽培に適用できないかという今進め方をしています。可能性は十分あると今見えますが、これから試験的な状況を繰り返しながら、実施に向けての努力をする必要性があると思っています。もう一つは、今富良野で小水力発電もありますが、これはほんの一部ですから、それは将来どうなっていくということではないかもしれませんが、電気の供給は可能であるという状況になっていきます。今白鳥川で試験を行っていますが、もう少し検討しながら、冬も稼働できるような状況づくりを行っているところです。ですから、そういう形の物をこれから富良野で新エネルギー、再生エネルギーをできるような企業が生まれるかもしれません。例えば、衛生ゴミというのは焼却しています。これは、上富良野の共同処理場で焼いています。これを別な形で利用できないかということで、これも今検討をさせていただいています。衛生ゴミから何ができるかとい

経済部

大変な回答をもらいまして安心しました。

そこで、私が考えていることは、一昨年の道新で見ましたが、帯広の農協が、今小麦を製粉し、これを麺にして売り出す。これが、3万トンというえん麦を潰しています。それを10万トンに変更するという、3倍になりますが、そういう数字も聞いています。ですから、私は、本当は、農協の本所に行けば1番良いですが、そういうことからいきますと、うちでも、今申し上げ

う、新しい製品開発ができるような状況になってきましたので、再エネルギーを使った形の物が、恐らくこれも可能性がある状況も最近出てきました。これらについても北海道大学、民間と連携をしながら、企業起こしに繋がるような状況ができる形を作る。そうすると、雇用の確保が生まれてくるというような状況が出てきますので、農業及びそれらに類する働く場所が、これから確保できるような状況もあるという感じもしているところです。

先ほど提案がありましたが、東山地区の農業と観光との連携ですが、昨年山部に1,400人の高校生が修学旅行で農業体験に入っていました。この経済効果というのは、ものすごい額です。西瓜、メロン、その他の野菜を購入して、後で発注を受けるというような状況もありますが、関西方面については、かなり有力な情報が入っていますので、そういう口伝に高校生が宣伝していかないと、山部、東山の農産物を買っていただくような状況づくりを、これからもっと積極的にしてく、そういう積み重ねが、これからの農業の新しい状況づくりに繋がっていくと考えているところです。ご意見については十分理解していますが、なかなか実施に向けては難しい問題もあります。1歩1歩努力をしていくということで行っていきたいと考えていますので、これからも、助言いただきたいと思えます。

【副市長】ありがとうございました。

た格好を作り上げていけば、だいたい製粉・製麺するのに600人の労働者が必要となります。問題は、この場合でいうと、仕事場が無いということです。もちろん、仕事が無いと困りますから、大会社でも持って来るか、誘致するか、そういうこともあわせていかないと、今を見ていると、何か消費者が潰れてしまえと言わんばかりのことになるような感じもします。一昨年、幾寅ですが、ここで一家族やっています。あわせてこういう麺類も製造を行って、そしてホクレンで売りました。ということで、そういうことになっていきますと、仕事場が、今言っている600人近くいるということですから、相当な仕事場ができるということも考えるわけです。ということで、この問題については、その内ご縁があれば、農協の本部に行き組合長ともお話を申し上げていろいろな方向に行っていただければ幸いです。以上です。

保健福祉部

中央保育所に子どもを預けています。実家が東山なので、今日は、地域のみなさんの意見などを聞けると思って参加しました。子どもを預ける立場として今日はお話をしたいと思います。予定地の場所には何度も足を運んでいます。本当にあの場所が適切なのか、子どもたちが安心して伸び伸びと生活できるか、私たちも安心して子どもを託せるか、親が仕事をしている間、子どもたちが1日を過ごす場所です。富良野はとても自然豊かなのに、こども園は、何故市街地なのか。隣接して3階建ての老人ホームや7階建てのマンションもできます。その間に挟まれて、子どもたちに圧迫感はないのか、本当に日々考えて、本当にあの場所が適切なのかを毎日考えています。今日も保育所へお迎えに行くと、園児はみんな園庭で遊んでいました。かけっこをしたり、遊具で遊んだり、砂場で遊んだり、本当に自由に伸び伸びと欲求を発散していました。親は朝から晩まで仕事や家事に忙しい毎日を送って

【市長】中央保育所に通わせているお母さんのご意見ということで受けとめました。現在の中央保育所ですが、お母さんがご存知のとおり、住宅街から市役所に対して相当非難が出ています。あれだけの狭い道路でお迎えをするということは、住んでいる住宅の方々は、相当騒々しいということで、市役所の方に、過去何十年もそういうお話が現実に来ています。今、行政の考え方としては、市街地が危険だ、それから危ない、あるいは環境が悪いということで、お母さん方がどの会場に行っても、同じような意見ばかりが出てきています。行政としては、ここに建てるということは、安全なくして行う人はいないです。お母さんたち以上に、心配も含めて、安全面というのは考えて建設するということです。ですから、今まで回ってきた会場でお母さんの言っていることは、聞いている範囲では、ほとんど同じ意見ばかりです。意見としてはそれで良いです。ただ、現実の問題として、そういう形だ

います。だからこそ、子どもたちには保育所では伸び伸びと生活してほしいと思っています。今のままで十分な環境だと思っています。個人的な意見ですが、あの場所に建設は望んでいません。本当に子どもたちの安心・安全を保障できるのか、親たちが安全に送迎できるのか。朝の送迎時間、8時から8時半の間に、集中しますし、隣接して老人ホームもありますし、その職員や関係者たち、7階建てマンションに住む住民の方々も仕事をされていると思います。だいたい仕事の時間は、みんな8時から9時の間で出勤すると思います。そうすると、道路の混雑も保護者の送迎だけではなく、近隣住民の交通量も増えるのではないのかなと、そういう面でも、安全面や事故が起きるのではないかなという不安もあります。これから観光シーズンになれば、交通量も何倍にも増えます。そのシーズンに重なって、子どもたちの運動会の練習も始まります。でも、もしその場所にこども園ができたなら、園庭が狭いために、運動会は富良野小学校のグラウンドを利用するという話を聞きました。大人の足で5分の道のりでも、子どもたちの足では10分、15分かかります。そういう観光シーズンになると交通量も増えますし、本当に子どもたちが安全に小学校まで通うことができるのか、子どもたちの中では、ちょろちょろする子もいますし、車や石に気を取られて走り出す子もいます。そういう面で考えても、本当にこの場所が適切なのかなと疑問しかなくて、納得できない面が多いです。後、候補地として、中央・麻町保育所もあがっています。その場所だと、国の補助が使えませんが、子どもの安心・安全のために、もっと検討していただきたいなと思います。こども園の要求は、私たちの大切な子どもであり、あそこに預けるのは私たちです。そういう意見も備えながら、納得いくまで十分な話し合いと説明をこれからも求めていきたいと思っています。人口の減少もこれからどんどん進んでいくと思いま

けでは物事は解決していきません。それからもう一つは、安全面の交通、環境の一酸化炭素の問題出ましたから、調査をするということで、140万円をかけて行います。現実的に、病気になった人がいるというようなことを発言されるということは、これは保護者の方から、そういう発言をされていますから、行政としては、そういう地域の方々から、病人が出ているような話をされるというようなことは、大変なことです。だからあえて140万円もかけて調査をします。ですから、安全面というものについては、お母さんたちが心配する以上に、行政が責任を持って行うということです。お預かりする場合でも、責任を持ってお預かりするということです。それから、街の中を子どもを連れて歩くというような状況もありますが、後ほど質問にお答えさせますが、中富良野町や土別市の視察に行き、担当者に見てもらいました。発想の観点が全然違います。これから子どもを育てる発想の転換というのは、これはぜひ、後ほど担当の視察に行った者にお話をさせます。こども園というのは、これから教育を基本とした形の中で、子どもを育てて、社会全体で子どもを育てていくのが柱になってきます。ですから、今お母さんの心配している子どもを働かすために預ける場所という形は今までありましたが、それを超えて、幼稚園と保育所を合体するものに、これからは変更になっていきます。こういうことを一つ理解していただかないと、これからの総合こども園についても、選択性が出てきますから、保育所ばかりが選択する場所でないです。それぞれ民間で行っている幼稚園も、同じ状況になっていくわけですから、選択をしていくということが、これから預けられるお母さんたちの状況であるということも理解をしていただきたい。加えて、視察した内容について説明をさせていただきますので、よくお聞きをしていただきたいと思っています。

す。この地域の子どもたちも、富良野市街の子どもたちも、また進学や就職にともなって富良野を離れる人が多いのが現状です。富良野の将来を支えていくのは、やはり今の若者たちであり、私たちの子どもたち世代であります。そんな子どもたちや若者たちが、いつまでも富良野に住みたいと思うようなまちづくりが大切ではないでしょうか。こども園ありきではなく、本当に若者たちが楽しめるような、集まれるような、子どもたちやお年寄りが、みんなが集えるような、そんな施設が市街地にあったら良いと私は思います。

・

【こども未来課主幹（保育所所長）】市長の方から話がありましたように、その現場の感触を中富良野町の中富良野保育園と、士別市の昨年できたばかりですが士別の地域の保育園の2カ所を視察してきました。

士別市の保育園については、富良野と同じように、二つの既存の保育所を一つに再編をして、新たな場所に保育所を設置することで、そちらの方では、保育所に子どもを預ける交通の便で、そういうものを最大限に父母の方から要望が出されて、あえて交通量が多い所ですが、士別の市街の中心部にその場所を選定されたと聞いています。士別の保育所も、2階建てで造っていますが、こちらの方は、運動会ができるように園庭を広く取っていますが、その反面、富良野で今計画をしています屋内プールの設置とか、発表会ができる広い遊技場、ステージを設けた遊技場というものは、士別の方は持っていません。これらについては、何を自前で賄って、何を借りるかという選択の問題になると思います。士別の方は、運動場を取って、その他のものを借りるという選択をされています。富良野の今の計画の案では、運動場については借りるけれども、その他のものについては自前で整備したいという、案の方ではあげさせてもらっています。

中富良野保育園の方は、平成16年に建設されて、道内外の方から非常に多くの視察が来ているという保育園です。こちらの方については、2階建てになっていて、富良野の計画しているものとは逆に、0歳児から2歳児については2階に保育室を設けて、年長者については1階の方に設けています。コンビネーション遊具を多く取り入れまして、子どもたちの体幹を鍛えるということを念頭にして保育活動を行っているところです。0歳児から2歳児については、階段を上り下りすることが非常に体幹を強めるためには有効である。それと赤ちゃんはハイハイをして、掴まり立

ちができるようになると、親が止めても捕まり立ちをする。立って歩けるようになると、親が止めても歩き回る。子どもの目から入る情報、視界が常に近い状態からより高い位置から見ることによって、その過程において、脳が著しく発達をするというところに着目をされて、そのようなことをしているという話を伺っています。ここの園庭は、運動会が行えるような園庭にはなっていませんので、こちらの方についても、運動会を行う時については、小学校のグラウンドを借りて行うということをしているということです。園庭が狭いことについても、富良野が予定しているものより、まだ狭い園庭で、「これだけ園庭が狭いと不便はありませんか」ということで、そこの関係の方にお尋ねしたところ「我々は街全体を園庭と考えている。子どもたちは、保育活動の中で、保育士さんに連れられて街の中を散歩する。その中で、見てきたものすべてが子どもたちにとって新しい刺激や発見であり、そういったもので、子どもたちの可能性を伸ばしていく」という考え方の説明がありました。

【保健福祉部長】一つ補足をしたいと思います。中富良野町については、今説明した通りですが、ただ、園庭については、やはり狭い。保育人数は、富良野は今120人を考えていますが、こちらは確か140人だと思います。従って状況見てもらえればわかりますが、運動会ができる状態ではない。中富良野小学校のグラウンドを借りて、運動会をしているというのが現状です。

土別市の話ですが、土地の選定については、富良野市と全く同じような考え方というのがあります。それは、民間の土地を買ってまでは建てられない。あくまでも、市で持っている土地を有効活用しようということが一つの始まりです。南と西にある保育所で、西にあるのは駅裏です。駅裏から1kmくらい離れているということですから、富良野で言えば麻町保育所がこれに該



当してくると思いますが、それを合体させて、いわゆる南と東側に建てようとしたらしいです。そちらは大きなデパートや市民プールもあって、住宅街という所に建てようとしたのですが、逆に保護者の方から反発を受けて、街の中へ持ってきてくれと。住宅街では地域交流が生まれないと。街の中へ持って行くことによって、いろいろな方たちとの触れ合いや出会いがあるだろうと。たまたま新しく建てたところの隣がシルバー人材センターで、よくお年寄りが集まる場所。富良野で言えば老人福祉センターです。その隣に建てたということが基本です。2階建てということですが、保育所自体は1階に納まっています。2階は子育て支援という一時保育を管理している部署になります。定員が110名ですが、面積的に言えば、恐らく800㎡までないと思います。富良野は2階建てで1,770ですから、ものすごい大きさでびっくりしていました。そんなに大きくしてどうするのですかという話をいただきました。それだけ有効な面積を活用するというプランですから、行政の考え方としては、先ほど冒頭にお話がありましたが、現場の保育士といろいろ検討しながら進めてきた話で、休みなどを除いて、実際に施設を活用するのは1年間の内、3分の2は施設内で過ごす事が多いということから、限られた面積であれば、施設を有効に活用しようというのが基本的な現場の考え方です。そのために、どんどんゆとりのある保育室とかを考えることによって、園庭がどんどん狭くなってきたというのが基本的な考えです。しかし先ほど、ご意見をいただいた方は、中央保育所の面積で十分だと仮定すれば、遊戯室を除けば、中央保育所は499㎡しかないです。園庭が1,200㎡ですから、中心街のところの面積が1,760㎡ありますから、1,200㎡を例えば、園庭に取ったとすれば560㎡を建物に取れます。ただし、遊戯室を2階に持ってくという形にはなりません。遊戯室も土別市と比

総務部

街中に住んでいて、移住して8年目です。好きで富良野に来たので、街がどうなっていくのかということに、非常に興味があります。この説明会も、今日で5回目です。今日は、郊外部のみなさんが、計画についてどのように考えているのかを聞きたくて、参加しました。説明をしていただいている中で、重要なのは少子高齢化、人口流出が止まらない中で、持続可能なまちづくりをどうするかということで、中心市街地再開発事業は、なくてはならない事業だと私自身も考えています。中心市街地と郊外地域とど

べたら概ね倍あります。定員は士別市が110人で富良野は120人ですから、ほとんど変わりません。士別市は、もう一つ園庭は取ってほしという意見もあったということで、園庭は取るようにしました。約1,000㎡あると思います。しかし、プールがありません。プールは、20分くらい歩いて市民プールまで行きます。そこへ行く途中に、道道を挟んでいます。大型車など、すごい台数が走っています。それを保育士が仕事ですから、施設の園児の安全を確保しながら連れてく。先ほど心配だとか言っていました。それが行政の業務としての役割ですから、行う以上は責任持つというのが基本的な考えだと思います。そこまで心配されると、本当に何も車も通らないそういう所に建てるしかない、私の立場から言えば、そういう考え方になってしまいます。100%のものというのは、なかなか難しいと思います。どこまで譲れるのか、お互いが話し合いの中で進めていくことだと思います。

【副市長】今まで地区懇談会を行ってきて、危険だとか園庭が狭いだとか2階に子どもを上げると危険だというお話があったので、どんな施設になっているのか現状を見てきたということで報告をさせていただきました。

【市長】この意見交換会というのは、まちづくりの基本的な考え方を市民の方々が多く知らない、そういう説明を十分させていただく。その一環に、こども園というものを行政とまちづくり会社が協働で市街の活性化の役割を果たすというのが、行政の責任であると感じています。この提案をしながら、議会でも請願を受けたということで、議会の請願の内容を少しお話ししますが、代表質問の中で、十分市民とのお話し合いを多くやってくださいというのがありました。それが中心です。それから、請願が出てき

ういう連携をしてくのかという考えも、最初の方が話されたように必要だと思います。総合こども園の建設について、本来は、別々に議論すべきことだとは思っていますが、気がついた所だけお話をします。

他の地域、市街地の説明会には、相当の細かい内容の説明をしていたと思います。ある会の時にもっと詳細な情報を開示してくださいというお願いをしました。良い事も悪い事も開示してくださいと。大沼の時に、丁寧に説明をしていました。保護者の方々から、こういう問題があると指摘されて、こういう対策を取りました、こういう考え方を持ってこうしました。丁寧な回答をしていたと思いますが、今日は郊外部だからそこまでする必要がないという判断かもしれませんが、説明がいつも1時間くらい説明しますが、今日40分くらいで終わりました。細かい部分についてはこうなる、総合こども園の施設や交通の安全面などの具体的な話がなかったので、そこも含めて行うべきだと思いますし、先ほどのお母さんからの方などからもありました、それぞれ賛成・反対などの意見を出し合うという事は必要だと思います。100%にはならないと思いますが、どこかですり合わせをして、落としどころを入れるという作業が、行政と市民との話し合いだと思います。何処を落としどころにしていくのか、どうやって合意形成をしていくのかというところが、もっと丁寧に説明をしていただいで、市民がある程度納得できるところまで努力をしていただくと、そのためにはもっともっと時間をかけて議論をするべきだと思います。大人は、20年、30年ですけども、子どもや孫たちが、安心して笑顔で暮らせるまちづくり、自信を持って自慢できるまちづくりのために、我々が今一生懸命努力して街を変えて、行政と一緒に問題を解決していく努力、その責任があると思います。是非、丁寧な説明をして、合意形成をできるだけ高めていただき

た内容というのは、富良野こどもの未来を守る会というのが富良野にあります。会から出てきた請願の中身については、総合こども園の建設見直しに対する請願です。その趣旨の中に、今日それぞれ意見交換させていただいている交通の問題、環境の問題、そういうものが中心の中身の説明です。3点としてあったのが、一旦この計画を白紙に戻すということが一つ目。2つ目は、地域住民と十分、もちろん関係者含めて話し合い、総合こども園の計画を進めること。3つ目に、子どもたちが健やかに育める環境づくりを基本に進めること。こういう3点についてです。ですから、この3点について、意見交換をしながら、現在まで来ているということです。先ほど、非常に他の所より説明が短かったということは否めない事実ではありますが、現実の姿として、それぞれ富良野こどもの未来を守る会の方々は、それぞれの会場に必ず同席をしていただいでいて、意見を頂戴しています。ですから、請願を出されている所の方々については、これ以上の説明はないと考えています。しかし、行政としては、この未来の会については、14日の日にきちんとご説明を再度させていただきます。ですから、今、ご意見ありましたが、5回会場に来て、それは地域によっていろいろなご意見があるわけですから、その回ったところが全部同じ意見でなかったらダメだというに聞こえます。ですから、地域によってはそれぞれの立場で発言があるわけですから、これは異なっても良いし、説明不足であればどの部分が説明不足かをお聞きになれば良いのではないだろうかと考えています。

経済部・  
保健福祉部

たいというお願いです。

うらやましいなという気持ちがすごくあります。東山のお店が無くなる時に、こんなに市長が騒いでくれたかなって思って。子どもたちが、小学校に通い始めましたが、長男の子が3年生でした。春先通学路を歩くときに、歩道が歩けなくて車道を歩いていました。「お母さん、僕、車道を歩いている、すごく怖いんだ」と言っていました。4条通は、その辺は大丈夫ですか。今すごく車がたくさん事故を起こしていますが、その辺も土別市の保育園は、道道通っているくらいだから、こっちは大丈夫だっていうふうに伺ったんですけども、これだから大丈夫っていうのは、言えるのかなと思ひまして、その辺はどうなのかなって感じたんですけども。

【市長】先ほど部長が言った表現がそういうふうに捉えたっていうことは、これは大変申し訳ないです。今のお母さんからの話ですが、例えば、京都だとか一方通行で、非常に狭い道路です。現実な問題として、富良野で死亡事故が年間に1件か2件あります。これは、国道を含めてです。ただ市道では、死亡事故というのは、過去にはあったと思いますが、近年では死亡事故というのはありません。国道や道道が事故を出しているという状況ですね。それで、お母さんへのお答えですが、この東4条、東3条など、道路もいろいろありますが、この間婦人会との話し合いで、東3条に婦人会の代表の方が住んでいますが、車は1日3台、4台しか東3条は走らないという、そんなお話をしていました。ですから、個人でいろいろな形でまちまちのお話をされているということは、現実でどれが正しいのか、どれが正しくないのかということがあると思います。ですから、決め付けてこうだということにはならないと。しかし、先ほどからお話しているとおり、行政が行うということは、それなりの責任を持って行っていかねばならないです。民間と違うところは、行政というものは責任を持っています。議会もあります。議会というのは監視役です。行政を行う上での監視役です。そういうチェック機能を発揮していただいて、行政が行われているというのが実態ですので、行政としては、仮にここへ設置するということは、これは施設の面からいっても、普通800㎡くらいです。2階建てですから、倍になりますから1,700㎡くらいになるんですけども、とても広いです。今、行政の方で内部検討しているのは、もっと施設を小さくして、園庭を広げることも必要でないかと、園庭が今は600㎡で、屋上に800㎡の園庭を作ろうというふうに今考えていま

すが、もう少しそういうようなことは、先程お話ありましたとおり、現場にいる保育士と相談しながら、その内容というのは変えていくことは可能だということです。ただいろいろな意見がありますが、それぞれの個人の考え方がありますから、それがダメとか良いということは、この場で否定するとか賛同するということにはなりませんので、意見交換ということで、この交通の問題については、十分ご意見があるということで受け止めてさせていただきます。

【副市長】台数の話ですが、1日3台ではなくて、あまり通らないという話をされていたので、誤解のないように。相対的に通らないというのがありますけども、あまり通らないという話と、時によってはという話の部分があって、時の部分の話が抜けていたということで、ご理解いただきたいと思います。

【中心街整備推進課長】資料に書いてない道路の関係のお話をちょっとさせていただきたいと思います。今問題となっている東4条通ですが、この東4条通については、先ほどもいろいろお話させていただいていますが、東5条とは違う、通過交通ではない交通をさせようという考えを持っています。そういうことで、幅を狭める、南3丁目の歩道がありますが歩道を使う、それから、南4丁目も歩道をつける予定でいますが、その歩道を使って、スピードを抑える、そのような考え方をここでしてみようかという検討をしています。ですから、ご心配されている歩道の関係は、今のところそういう話が多いですから、そういう歩道の部分についても今検討をしている最中です。最終的にはどのような形になるか、まちづくり会社の方と検討しなければならない部分ですが、民地側の協力ももらいながら、歩道ができればと考えています。それから、南4丁目の関係です。今も説明したとおり、両側歩道で作っていきます。それからバス関係については、国道から東5

<p>経済部・保健福祉部</p>	<p>総合こども園は、すごく良いものだと思っておりますが、ここに建てるのは決定という感じですか。もし、そうではないなら、他に何か案とかも考えているのですか。こども園しかもう考えていない感じですか？</p>	<p>条に入ってきて、南4丁目に入ると。それぞれ4、5台分くらいのスペースはありますが、降ろして本通に出て行ってもらうという交通形態を今のところ実際にとっています。一般車両についても、同じことを言えますが、南4丁目から一般車両が一端入って、出て行くのは、通常は南4丁目を出て、これも同じく本通にいただくという考えで、今まちづくり会社の方で案内をしています。なぜかと言うと、東3条通ですが、駐車場から出ましてすぐの部分は、国道まであまり距離がないです。そういう関係で、どうしても渋滞してしまうという考え方がありますので、それは渋滞緩和のために、東3条通を通らないで、あくまでも本通りに出て、それぞれ自宅に向かってもらうというような交通形態を今のところとっている状態です。それと、どうしてもマルシェに入ってくるバスだとか、一般のお客さんもかなり入ってきていますが、東5条と国道の交差点で渋滞を起こしているということで、開発局と協議をして、今年調査をかけまして、来年度この東5条と国道の交差点の、交差点改良を来年から工事を始めると聞いています。</p> <p>【副市長】ここにはこども園ということで考えているということです。ただ、意見をお伺いしながら、本当に解決できないものが出てくる可能性もあります。いろいろな意見で、先ほどからずっとお話をさせていただきましたけれども、そうなった時には、このこども園がなくなる可能性もあるってということです。</p>
<p>経済部・保健福祉部</p>	<p>では、決定ではなくて、もしかしたら、麻町とか中央とかを建て替える感じにすることもあり得るということですか？</p>	<p>【副市長】それは、市としては今そこだと考えているということです。それで、先ほどの話で、変わった時もどうしてもここには施設がありますから、安全面はどんなことをしても考えなければならないということにはなってきます。</p>

経済部	<p>東山地区にも、無理だとは思いますが、お店ができれば良いなと。少なくとも15分は走るの。</p>	<p>【市長】去年、この商店の問題で、地域の住民とお話をさせていただきました。25人が単身で車も持っていないという方がいました。その人たちに代わるために、自宅まで物を運んで行くようにしたいというのは5件くらい、私の記憶ではありました。そういうことを行うということでお話をしましたが、その人たちは、自らがお店に行きたい、運んでくることについては賛同できないということで、そこまで言われるので、それを実施しなかった。しかし、今麓郷の商店が中心となって、東山まで注文を取って行っているということをご存知ですか。商店が代わって、代行としてお年寄りを中心に、そういう形をしているということです。お店の問題というのは、ここに来てお店をするというのは、購買力がなければ、誰が考えたって、購買力のないところに、お店を出すということにはならないです。ですから、この地域の方々が工夫をしてお店を開くということでは、行政からの支援はします。行政も、ここで地域の方々が頑張ってお店を出す工夫をするのであれば、行政もそれに対して支援はしたいと思います。それだけは申し上げておきたい。</p>
経済部	<p>4月にこの富良野に移住しまして、お話を伺っていた中で、写真があって、こども園の前の道路も通りにくくする工夫も、これからされていくと思います。</p> <p>駅前についてですが、あっちこっちみなさん視察に行かれたということで、逆に視察に来られるような富良野の駅前を作りたい。マルシェは、ああいう外観なので、そここれから作る商業施設と街中の景観というかバランスも考えて、富良野というのはこういう街だなということが印象に残るようにしてほしい。よく中国の方、シンガポールの方が観光に来ていますが、</p>	<p>【市長】富良野の形は、大都会にも負けなくらい郊外に少しずつ延びていった地帯です。今、富良野の観光の場合は、拠点方式と言って、チーズ工房へ行かれる人やぶどう果樹研究所など、分散型の拠点ということで、今からだいたい25年前くらいには、そういう発想で、自然景観が美しいですから、そういう拠点拠点到、観光の方が来ていただくというのが狙いでした。商店街も、最初はそういう形ではありませんが、徐々に郊外に出てくということで、市民生協ですとか、そういう郊外型に少しずつ変わってきているというのが、富良野の実態です。それを今度はコンパクト</p>

北海道は、日本のヨーロッパだということで、やっぱりヨーロッパの町並みは、インパクトで印象に残るわけで、そういうところを作って富良野を思い出せるように開発をしてもらいたい。まだ、本当にどこまで青写真ができ上がっているか、いないのかわからないですが、図面見せてもらって、1番広い道路にいっぱい駐車場がありますけども、あれは、歩道いっぱい車が横切るという所なので、そんなところもちょっと危なくないように是非考えて欲しいなど。

東山の話出ましたけども、今の時間から富良野の市内に行っ  
て、どうやって帰ってくるのかというところも、帰ってこられないと聞きましたけれども、そんなところもみなさんが困っている  
んだろうなと思います。

今日NHKのラジオで、地域の活性化には、よそ者、若者、馬鹿者がいるということで、よそ者として意見を述べさせていただきました。

私は車の免許を持っていなくて、バスで移動をしています。富良野の市街に買い物に行きますが、よく道を聞かれます。多いのが、富良野の街で子どもの遊ぶ場所はないですかと。一応、ボウリング場はありますので話はしますが、もうちょっと子どもの0歳からだいたい学校入る前くらいの子どもの遊ぶような所はないですかというのをよく聞かれます。そういう遊具施設というのも、どこか、こども園の場所っていう意見ではないですが、そういうことも、耳に入れていただければ、頭のどこかに置いてくればありがたい。遊ぶ場所で子どもが遊び、お母さんたちが買い物するというようなことを聞いたので、頭の中に置いていただきたいというお願いです。

トに、市街地にそういう形成を行っていく必要があるということで、少し転換をした中での基本計画を変えたということが実態です。今それぞれ移住された方がご意見を持っているということは、他のところでも、そういう意見を伺いましたので、これから是非、そういう方向も、十分頭に入れながら、市街地の開発というのは行っていく必要があると考えています。貴重なご意見ありがとうございます。

【市長】もっともなご意見だと思います。一つは今、富良野市の場合、公園に遊具を置いている。それぞれ地域ごとに公園がありますから、公園に遊具を置いてあります。子どもはその地域で遊んでいただくということですが、今言っているのは、買い物時間に遊ばず場所が、子どもに必要なだというふうにお聞きしたんですけども、そういうことですね。

経済部・  
保健福祉部



<p>経済部・保健福祉部</p>	<p>観光客の方が多いです。地元の方たちではなくて。</p>	<p>【市長】観光協会の方と、いろいろと接点持ってお話をさせていただきますが、今、駅前のふらっとをご存知ですか。ふらっとという施設があります。あそこの1階が全部空きます。ですから、あの場所を何とか今、お話あったような状況の中では、作ることは十分可能ですので、それぞれ関係する団体とお話し合いをしていく必要があるとそんな感じがします。</p> <p>【副市長】他の地域でも、同じような話があって、ふらっとの下に遊べるものがあればというお話もされていました。それも、外から来られた方が、そういう話をしていました。</p>
<p>総務部</p>	<p>小学校の授業が終わってからの、子どもたちの安全管理の仕事も、ちょっとしています。それで感じたことですが、お年寄りも、そういう子どもたちと接する機会が、だんだん薄れてきているというのを感じます。地域はやはり、家族ぐるみのお付き合いができるような地域でないと、いい環境とは言えないのではないかなと感じています。これからも、自分の体と相談しながらにはなりますけれども、少しでも地域の家族ぐるみの付き合いができるような地域になってほしいと感じています。</p>	<p>【副市長】ご意見として、ありがとうございました。</p>
<p>経済部</p>	<p>その市街化の開発事業というか、その中で共同住宅が結構高層ビルみたいな説明でしたが、観光施設のある前で、しかも両脇というか、片側に商店街だとかある中で、住宅というのは、ちょっといただけないのではないかなと思います。</p> <p>東山の人間ですが、買い物するのに行きやすいというのは、夜遅く、自分も農家をしていて9時くらいまで開いている店に、どうしても忙しい時は行く機会が多いですが、なるべく店屋が集中していただければ、こちらから行っても買い物もしやすいし、行きやすいかなと思います。どうでしょう。</p>	<p>【中心街整備推進課長】共同住宅の部分ですが、東4条街区市街地再開発事業自体が、土地を有効活用に使った街中居住という部分をめざしていますので、そういう意味で、この部分の7階建ては、事業上必要な建物という位置付けになってしまいます。それぞれ建物がありますが、3階建て以上という制約があります。そういう中で、例えば、戸別店舗はほとんどが3階建てです。それからクリニックは2階建て、老人ホームは3階建てで予定していますが、そういうものを総合的に建物の階数を足していくと、どうしてもこの部分については、7階建てになってしまうというこ</p>

とです。そういうことで、その7階建てについては、まちづくり会社の方で責任を持って、分譲なり、賃貸をしていくという考え方で事業を進めているということです。

土地の関係の話ですが、空き地を集約して新たな建物を作っていくというのが市街地再開発事業です。ですから、出ていかれる人もいるし、残る人は、一街区の通りに商業ゾーンとして残っていただくというような形になります。最終的に、そういう形で集積して残った土地というのが、今言われているこども園の部分ですが、このこども園の部分については、1番最初の部分では、昨年の8月の段階では温浴施設という部分がありました。その温浴施設の代わりに、この総合こども園になったわけではありません。市としては、行政施設としていろいろなものを検討して、最終的に、総合こども園が良いだろうということで、今みなさんにご意見を頂戴しているところです。あくまでも温浴施設については、まちづくり会社が計画した事業です。富良野市はその事業に乗るために、行政窓口という部分が基本計画には載っていますが、その行政窓口に代わる行政施設をここに持っていきたいという考えで、今総合こども園の計画の部分をお話させていただいているという状況になっています。

【副市長】共同住宅については、まちづくり会社が、それぞれそこを賃貸や売買をして、収益を上げなければ会社として成り立たない部分もありますので、その部分でそこを計画しているということになっています。先ほどの5条通の前のところに、店舗ができる方から質問があり、「7階建てが建つと無機質だ」ということで、何とかならないだろうかということで、マルシェの方も、色は統一してきています。ここについても、壁面については、色も検討するという話をまちづくり会社も言っていますので、先ほどお話し合った経緯を伝えていこうと思っています。そういう

経済部・  
保健福祉部

新聞報道から受けた感じとしては、性急な感じがしていましたが、（この懇談会に）出席してみても良かったのは、何回か説明をされている中で、出された意見を取り入れた中で提案をしているということ、発言された方の話と答弁の中で感じて、そういった形で行っている部分では、性急ではないというのを感じました。こういった地域ですから、市街地の活性化の話は、うらやましい悩みをされていると感じていますが、当の保護者の方にすれば、切実な問題なんだろうなという部分を感じています。それでもかなりの部分、交通量についての規制の方法とか、いろいろな意見交換会から出た部分の改善点をお持ちになっているということが大きく安心をしています。自分たちの地域は、本当に淋しくなっていますが、核になる市街地の中心部まで活力が無くなると、こちらの方に向けてもらえるエネルギーという部分も、萎えてしまっただけでは困るという部分で、是非とも、活性化に向けて頑張りたいと思いますし、そういった活性化の波及を持ちながら、東山の地域にも波及されるような策を出していただければと強く感じています。

ことで、統一性のある、富良野に合ったものという形をしてほしいと、この向かいのお店をする方からも言われていました。ということだけをお伝えすることくらいしかありませんが、まちづくり会社の部分で、そこまで首を突っ込めない部分の中にあると思いますので、その辺については、ちょっとご理解をいただきたいなと思います。

【市長】東山地域の活性化というのは、相当地域との連携を取りながら、力を入れていきたいというのが私の考えです。

人を呼ぶためには、どうするかということが一つあります。今、担当の方に話をしているのは、中富良野と上富良野、美瑛は今年から花観光を行う予定です。富良野の花観光というのは、お客さん来て、富良野のどこに見るところがあるのですかと聞かれた時に、答えられないというのが現実です。ですから、この美しい山岳・田園・森林を見てください、そして、癒しにしてくださいというのが最善の言葉として、観光客の方々には話をしています。現実的に東山地域について、農業と観光とどう結び付けて再生を図っていくというのが、1番これからの大きな課題の取り組みです。麓郷に行ってきましたが、麓郷よりも東山の方が、将来ですが期待できる街と思います。これだけの景観を持っているところはそんなにないです。ですから、それに何をプラスして活かすかということ、行政も一生懸命考えています。今年からは具体的にできれば、それぞれ地域の振興会を通して、お話や相談をさせていただきますが、そういうことを行うことによって、国道38号線から来るお客さんが停まっていただけのような状況づくりをまずしなければなりません。国道38号線を走って来たお客さんの方が、自家用車でここに停まらなければならないというような状況づくりを考えていきたいと思っています。今年からそのように考えて

経済部

中心街の話で、いろいろな話が出ていましたが、率直に言うと、将来的には駅までつなげ行く開発ということで聞いていますので、そうであればもっとそのスペースに余裕を持って、無理やりそこに入れる必要があるから入れるのではなく、もう少し駅までの範囲を含めながら、検討できないのかと。観光バスの安全性とかも確保するとは言っても、現実には無理だと思います。今の案では。だから、本当にスペースに余裕を持って道路を取って、生活道路と観光道路と分けるとか、そういう思い切ったことしないと、絶対危険性はあると思います。どうせ行うのであれば、本当にそこに入れなければならないから入れたではなくて、4条通に関して、極端に言えば必要でなければ、無くしても良いと図面

いますので、後日、振興会の方と話し合いを持ちたいと考えています。ですから、あくまでも現実的に行うということでない、絵に書いた餅ばかり並べても、現実的になりませんので、今年から実践をするということで決めましたので、一つご協力をお願いしたいと思います。

もう一つは、今年から青年塾を行います。今45名の方が申し込みをされて、スタートすることになりました。30歳ぐらいの方々も結構います。農家の方が3人ですけども、その他の職業の方で女子が17名で、そういう富良野で交流をする中で、新しい富良野の出会い、そして新しいカップルができるような努力をする。それには婚活ばかりでなく、いろいろな学習をしていただくという形を取りたいと思います。ですから、今日お集まりのみなさんの周辺に、そういう若い方がいましたら、会費も取りませんし、参加費も取りません、無料です。ただ、飲む場合には自己負担をいただきますが。この機会にお話させていただき、加入していただくようお願いをしたいと思います。

【市長】駅前と点と点を結んで構築していく、これから10年か15年くらいかかるでしょう。その中で、街の中に駐車場の確保や公園というものを、今第3次の計画の中にまちづくり会社では、考えていると思います。ですから、順番的な問題としては異論があると思いますが、完成図には、バスの市街地における駐車場の配置、先ほど話のありました子どもの遊べる公園の市街地の設置、こういったことも、これから第3次の計画の中に出てくると感じられます。そういう計画をこれから持っているという状況ですので、ご理解いただきたいと思います。

体験農業の関係ですが、行政も考えておきたいことですが、ただ地域の農家の方が、本当にそれでやる気が出てくるのか出てこ

を見てそう思います。どうしてもここに作るのであれば、やっぱり、通わせるみなさんが、その周りではなくて、親のみなさんが納得できるような、やっぱり案を出さないと難しいと思います。

地域のことに関しては、市長も冒頭の話の中で言っていた体験型農業というか、何かを作って観光客に見せるという提案ですが、それに関してはあまり賛成ではないです。観光客のために花畑だけを作って、そこだけを見てもらうのではなくて、ここの地域全体の自然を見てもらうのが、1番大事だと思います。それをするためには、体験型の農業というか、ただで泊まって、食事も振舞って、農業体験してください、手伝ってもらって助かった、お金はいらぬからというのであれば、全然問題はないですが、千円でも2千円でもお金を貰うということになれば、いろいろ法的な問題もあるので、いろいろ整理をしなければならないので、それはやはり行政でないとできないことなので、そこも含めて、体験型の農業ができるような形を行政の方で絵を書いてもらいたいと思います。今、後継者のいない農業者も多くなって、若い人たちが来てくれたら、年配の人の励みにもなると思います。一泊でも二泊でも泊めて、誰かの世話をしなければならないとなったら、たぶん今まで以上に元気もでるし若返るだろうし、来た人は田舎に帰って来たような、田舎のない人でも田舎を体験できるというようなことは、多分、農協ではできないことだと思います。行政でなければできない。その辺何とか絵を書いて、この地域限定版として、スタートしていただければありがたいと思います。要望ですけども。

ないのかといったことが大事です。計画を作っても、計画が倒れるような状況でも困ります。そういうこともあわせながら、今ご意見いただきましたから、内部で早急にこの問題については、去年ぐらいから話し合っていますから、どういう形で行えば、地域が協力できるような体制になるのか考えてみたいと思います。もう一つは、この地域にも言えると思いますが、山部の方が高齢で農家を辞めるという状況になりました。ところが、東京の中小企業の会社が、法人を作って一緒にしませんかというお話がありました。その方は、自分の土地を貸して、自分の能力を活かして西瓜やメロンを作って、去年は7月前に出荷したということで、相当の収入を得たという報告がありました。ですから、後継者がいないなど、そういう状況であれば、企業との結びつきで法人化をして、土地を売らないで活用していくという方法も、これから必要ではないかと考えています。なぜそうなのかと言いますと、去年、一昨年に北大の今年4月に採用した職員が、農村部の実態調査を行いました。そういう状況が残っていますから、その家族の状況だとか、家の状況というのを、十分把握できます。今年はそういう方向のものも、体験農業とあわせた形の中で検討して、この地域の活性化を図っていくようなことを考えていくことを積極的に行わなければ、東山の状況から考えてみても、富良野から見ればかなり土地条件が悪いところで、現実に住んでいますから、これらについては、この現状の中での農家の方々と、もっと話し合いを進める必要がある。経済部長も来ていますから、十分今日の話を受け止めて、計画的なものを作っていきたいと思います。

【副市長】中心市街地活性化基本計画については、先ほど市長も触れましたが、あまり理解されてない部分があるということで、街中サンライズパークだとか駐車場や公園など、計画の中に入っ

経済部

離農した時に、全地処分ということをしました。この土地にずっと住んでいようと思ってはいたのですが、全地処分してしまうと、段々居づらくなってきます。空き家が50戸はあると思います。なぜ空き家になったのかというと全地処分してしまったことによって、そこに住む人がいなくなります。そういう空き家が随分目に付きます。これからは農地移動や後継者がいなくて農業ができなくなったというような方が出てくるのかなと思います。そう思った時に、農業をしていた頃は、2反分位まで、土地を残せたと思います。今はどうなのかわりませんが、農業辞めてしまっても、そこに住んでいれるような形を取るとか、また家の方もそこに居れなくなったら、後で入ってもらえる、入り易いようなことを考えてあげることも必要だということをおもいました。

経済部

街の中に、観光トイレがお話の中に無かったです。中央バスの

ていますが、みなさんに伝わってないということで、改めてお話をしました。

【市長】これからは、行政も念頭に置きながら行わなければならないと考えています。ここ4年で、市役所の窓口を通して移住してきた方が42組93人です。窓口を通さなければ、100人以上の方が、東山もちろん入っていますが、移住して来ているという状況です。空き家の問題も、当然出てくる可能性があります。去年は、山部が空き家対策の全部調査を終わらせてまして、そういうものが、移住してくる時に住宅の提供が、景色の良いところだとか、少し畑を作りたいという希望もあります。昨年、農家の実態調査を行った経過を踏まえ、その状況が30戸くらいあるということから、その30戸きちんと整理をして、どういう状況か、家主は誰なのか、そういった点も調べながら提供できるというように行えば、市が仲介をして、全戸貸し切りにするとか、いろいろな方法がありますから、そういうことも考えていく状況をつくる。先ほどお話したのは、東山についても、それらを含めた中の活性化を検討する必要があると考えているところです。山部も少し進んできました。今年からNPO法人を作って、活性化を図るということで、6月に北海道から認可が下りるようになっていますが、期待したい。いろいろなことを山部でしようとしています。そういう地域の若い方々、若いといっても40代から50代の人ですが、一生懸命、そういう状況づくりをしていただいているということで、若い人が少しずつ元気が出てきているとお話を聞いていますので、その若い人たちと連携をしながら、この再生的なものを作っていく必要があると感じています。

【市長】富良野の場合は、施設ごとにトイレを持っています。例

	<p>運転手に聞いたら、観光トイレくらいあってもいいのに、ここはないですと言われましたけど、この考え方はないですか。</p> <p>前に1億円というお金ありました。あの80%が観光トイレになったっていうかなり前の話ですが。</p> <p>市ともなれば、観光トイレが2つくらいあっても差し支えないという気がします。占冠の人に「富良野は何処で用を足したらいいんでしょうか」という話聞かれましたが、言いようがないです。今、市長が言われたように、各場所にトイレがありますから、そこを使ったら良いと言われれば、それで話は終わりです。ですから、こういったことも含めた中で、構成をしていかないと大変じゃないかなとそう思いました。</p>	<p>えば、ぶどう研究所、チーズ工房だとか、今度できたマルシェもそうです。それから駅もあります。それから駅の公園もあります。それから、今、ふらっとも大衆のトイレを持っています。ですから、新たに観光トイレというものを私は作る必要がないと思います。施設に行った時、見学に来た時に、そこで用を足していただくという形が、富良野の行っている形で、これ以上、観光トイレを増やすという状況は、今のところ考えていないということです。</p> <p>【市長】竹下内閣の時ですが、富良野は何に使ったかという、ぶどう果樹研究所の姉妹のぶどう果汁の方の建設を8千万円かけて今清水山のちょうど下に降りて出るところにある施設に当てたということです。</p> <p>【副市長】ご意見としてお伺いしたいと思います。</p>
--	---	---